

<研究ノート>

イタリア総選挙結果とコンテ内閣の成立

高 橋 利 安

イタリアでは、解散・総選挙の実施の前提条件であった両院の選挙制度改革が実現し、新選挙制度に基づく両院選挙が2018年3月4日に実施された。その結果、与党の中核であった民主党（PD）が惨敗し、政党としては五つ星運動（M5s）が、政党連合としては中道右派（同盟 [Lega], 頑張れイタリア [FI]）が最大の投票を得る結果となった。この結果を受けてマッタレラ大統領を中心に新内閣形成に向けた協議が行われ、最終的にはM5sとLegaを与党とした非議員のフィレンツェ大学教授コンテ（Giuseppe Conte）を首相とした内閣が成立した。マスコミでは、M5s・Legaの躍進をヨーロッパにおけるポピュリズム政党の台頭現象の一環であるというトーンで報道された（「ポピュリスト政党が躍進 過半数勢力なく、連立協議へ イタリア総選挙」[朝日新聞]）。

本稿は、総選挙の本格的な分析と新内閣の成立の意味の検討の出発点として、①総選挙結果に関する情報提供及び基本的な分析、②コンテ内閣の成立に至る経緯を大統領の権限との関係で整理することを課題としている。

1. 総選挙の結果の概要¹⁾

(1) 中道右派 vs 中道左派という2極構造の崩壊

まず、確認できるのは、第1党のM5s、同盟を中心とした中道右派、民

本稿におけるインターネット情報の最終アクセス日は、2018年10月31日である。

1) 以下の記述は、以下の文献に依拠した。Ivo Diamanti, I colori della geografia elettorale, in Fabio Bordignon, Luigi Ceccarini e Ivo Diamati, *Le divergenze parallele, L'Italia dal voto devoto al voto liquido*, Laterza, 2018. pp. 92–110; Vincenzo Emanuele ↗

中党を中心とする中道左派がそれぞれ3割から2割を占める三極的政治編成となった点である。異なった選挙制度で実施された2013年総選挙でも出現した「三極的編成」(中道右派の核はPDLであった)が、今回も確認されたことは、94年の「第2共和制」への移行以来、継続してきた中道右派連合・中道左派連合からなる二極的な政治編成が終焉したことを意味する。

(2) 政党・政党連合の得票の動向 総選挙の勝者は？

今回の総選挙の勝者は、明らかにM5sとLegaである(表1, 2, 3参照)。そこで、まずM5sの結果を見ることにしよう。

M5s 政治風刺で有名なコメディアン**のベッペ・グリッロ**(Beppe Grillo, 1948年生)とシステム・エンジニアから企業家となった**ジャンロベルト・カザレージョ**(Gianroberto Casaleggio, 1954~2016年)により、2009年に組織された新しい政党である。既存の政治勢力批判や緊縮財政への批判で有権者の支持を広げ、初の国政選挙であった前回(2013年)の総選挙で、下院の第一党に躍り出た。地方選挙でも躍進を続け2016年には、ローマとトリノといったイタリアの主要都市の市長選で勝利した。

今回の総選挙にも若手指導者の**ルイージ・ディ・マイオ**(Luigi Di Maio, 32歳)を首相候補者として選挙を戦い、政権担当の主導権を握れるか否かの目安とされた3割の得票を超え、他党を引き離して第1党となった。

↙ e Salvatore Vassallo, *Gli effetti del Rosatellum e la nuova geografia del voto*, in AA. VV. Itanes, *Vox populi Il voto ad alta voce del 2018*, il mulino, 2018, pp. 20-36; Istituto Cattaneo, *Elezioni Politiche 2018, Chi ha vinto, chi ha perso*, <<http://www.cattaneo.org/wp-content/uploads/2018/03/Analisi-Istituto-Cattaneo-Elezioni-Politiche-2018-Chi-ha-vinto-chi-ha-perso-5-marzo-2018-2.pdf>>; ID, *Elezioni Politiche 2018, Il voto per il Movimento 5 stelle: caratteristiche e ragioni di un successo*, <<http://www.cattaneo.org/wp-content/uploads/2018/03/Analisi-Istituto-Cattaneo-Elezioni-Politiche-2018-Movimento-5-stelle-8-marzo-2018-1.pdf>>; 芦田淳「【イタリア】2018年両院選挙と選挙後の政治動向」外国の立法 No. 275-2 (2018.5) 14-15頁; 伊藤武「イタリア総選挙をめぐる政局から「ポピュリズム」問題を考える」學士會会報931号(2018年7月)。

高橋：イタリア総選挙結果とコンテ内閣の成立

表1 2018年上下両院選挙における議席数

候補者名簿等	下院				上院			
	小選挙区	比例区	在外選挙区	合計	小選挙区	比例区	在外選挙区	合計
中道右派連合	111	151	3	265	58	77	2	137
5つ星運動	93	133	1	227	44	67	0	111
中道左派連合	28	88	6	122	14	44	2	60
自由と平等	0	14	0	14	0	4	0	4
その他	0	0	2	2	0	0	2	2
合計	232	386	12	630	116	192	6	314

(注1) シチリア州で、5つ星運動が候補者数を上回る議席を獲得したため、上院比例区で1議席が未配分である。

(注2) 「その他」の内訳は、両院共、在外イタリア人連合運動及び南米イタリア人移民連合の各1議席である。

出典：芦田淳「【イタリア】2018年両院選挙と選挙後の政治動向」外国の立法 No. 275-2

表2 国内比例区における得票数、得票率及び議席数

候補者名簿		下院			上院		
		得票数	得票率	議席数	得票数	得票率	議席数
中道右派連合	同盟	5,694,351	17.3%	73	5,323,045	17.6%	37
	フォルツァ・イタリア	4,591,888	14.0%	59	4,358,101	14.4%	33
	イタリアの同胞	1,435,114	4.4%	19	1,286,887	4.3%	7
	我らイタリアと共に—中道連合	430,805	1.3%	0	362,131	1.2%	0
5つ星運動		10,732,373	32.7%	133	9,733,303	32.2%	67
中道左派連合	民主党	6,153,081	18.7%	86	5,788,103	19.2%	43
	南チロル人民党—トレント・チロル自治主義者党	134,613	0.4%	2	128,336	0.4%	1
	その他(3候補者名簿計)	1,217,434	3.7%	0	1,032,544	3.4%	0
自由と平等		1,114,298	3.4%	14	990,715	3.3%	4
その他(17候補者名簿計)		1,336,098	4.1%	0	1,210,709	4.0%	0
合計		32,840,055	100%	386	30,213,874	100%	192

(注) 「南チロル人民党—トレント・チロル自治主義者党」は、少数言語話者を代表する候補者名簿に対する特例により、阻止条項(全国で有効投票の3%以上)にかかわらず、議席を獲得している。

出典：同上

表3 2013年及び18年下院選挙の政党及び政党連合の得票・得票率の対照表

政党名	得票数		2013年を100とした得票率差	得票率		得票率の差
	2018	2013		2018	2013	
左翼	507,856	860,028	-40.9	1.6	2.5	-0.9
Sel/Leu	1,095,396	1,089,231	0.6	3.4	3.2	0.2
PD	6,032,143	8,646,034	-30.2	18.7	25.4	-6.7
CS/altri	1,323,049	332,319	298.1	4.1	1.0	3.1
CS total	7,355,192	8,978,353	-18.1	23	26	-3.6
FI	4,535,742	7,332,134	-38.1	14.1	21.5	-7.4
Lega	5,634,577	1,411,510	299.2	17.5	4.1	13.4
Fdl + LaDestra	1,402,732	889,401	57.7	4.3	2.6	1.7
CD/altri	425,828	476,020	-10.5	1.3	1.4	-0.1
CD total	11,998,879	10,109,065	18.7	37.2	29.6	7.6
M5s	10,522,272	8,704,809	20.9	32.7	25.6	7.1

出典 : elaborazione Istituto Cattaneo da Ministero dell'Interno, <<http://www.cattaneo.org/wp-content/uploads/2018/03/Analisi-Istituto-Cattaneo-Elezioni-Politiche-2018-Chi-ha-vinto-chi-ha-perso-5-marzo-2018-2.pdf>>

より詳細に M5s の得票の実態を見ることにしよう。2018年選挙において、M5s は支持基盤を固めるだけでなく、拡大することに成功した。すなわち、2013年と比べて得票数で約200万票（870万票から1,050万票）、得票率で7.1%（25.6%から32.7%）増加させた。2013年選挙における M5s の地域別の得票率の偏りがほぼなかったことから（表5参照）、M5s を新しい真の「全国政党」と評価する評者も現れた。

しかし、2018年選挙における M5s の勝利は、中部（+7.2%）、とりわけカンパーニャ（+27.2%）、バジリカータ（+20.1）、プーリャ（+19.4%）、カラブリア（+18.6%）といった南部（全体 +20.7%）のいくつかの州での成功に負っている（表4・5）。この南部での躍進が北部の州（フリウリ-2.6、リグリア・ヴェネト-1.9）での得票の喪失を帳消しにした。こ

高橋：イタリア総選挙結果とコンテ内閣の成立

表4 2018年下院の政党・政党連合別得票率（地域別）

	全国	北西部	北東	中・北部	中・南部	南部・島
PI (Pdl)	14.0 (-7.6)	13.6 (-6.7)	10.1 (-7.4)	10.0 (7.1)	13.5 (-9.4)	18.6 (-8.1)
FdI	4.4 (+2.4)	4.0 (+2.2)	4.2 (+2.8)	4.0 (+2.2)	7.3 (+4.3)	3.7 (+1.7)
Lega	17.4 (+13.3)	25.7 (+16.2)	29.3 (+20.4)	18.4 (+16.9)	13.2 (+13.0)	3.7 (+5.5)
CD (Total)	37	44.3	44.7	33.0	35.2	30.4
PD	18.7 (-6.7)	20.8 (-4.9)	16.8 (-4.5)	26.8 (8.8)	17.6 (-7.4)	13.2 (-7.5)
CS (Total)	22.6	25.2	21.5	30.6	21.7	15.9
LeU	3.4	3.3	3.0	4.2	3.5	3.2
M5s	32.7 (+7.1)	23.6 (+0.5)	25.7 (-1.1)	27.7 (+2.0)	34.9 (+6.6)	46.9 (+20.1)

* カッコ内は、2013年と2018年の得票率の増減

** 全国：Valled'Aostと在外選挙区を除く

北西部：Piemonte, Lombardia, Liguria; 北東部：Trentino-Alto Adige, Friuli-Venezia Giulia, Veneto; 中北部：Emilia-Romagna, Toscana, Umbria, Marche; 中南部：Lazio, Abruzzo, Molise; 南部・島：Campania, Puglia, Basilicata, Calabria, Sicilia, Sardegna

*** FdI：イタリアの同胞；CD (Total)：中道右派連合全体；CS (Total)：中道左派連合全体；LeU：自由と平等

出典：elaborazioni Osservatorio elettorale Demos, <<http://demos.it/a01485.php>>

の結果、M5sへの投票の南部化が進行した。2013年は、M5sは州ごとの得票率の偏差が4.5でPdl(4.4)とともに最も地域的に偏りがなく全国レベルで集票する政党であったが、2018年には州ごとの偏差値は10へと跳ね上がった(表5)。視覚的にM5sの投票の南部化を図1・2が明瞭に示している。

M5sへの投票はどこから来たのであろうか？この政治アクターの大躍進を生み出した有権者の投票行動とはどのようなものであったのであろうか。この問いに答える為、カッターネオ研究所が、9都市(プレシャ、パルマ、

表5 2013年および18年総選挙における M5s, PD, Pdl/FI の州別得票率

	2018			2013			得票率の差		
	M5s	Pd	Pdl/FI	M5s	PD	Pdl/FI	M5s	PD	Pdl/FI
Piemonte	26.5	20.5	13.4	27.5	25.1	19.7	-1.0	-4.6	-6.3
Lombardia	21.4	21.1	13.9	19.6	25.6	20.8	1.8	-4.5	-6.9
Trentino-A.A	19.5	14.7	7.0	14.6	16.7	10.9	4.9	-2.0	-3.9
Veneto	24.4	16.7	10.6	26.3	21.3	18.7	-1.9	-4.6	-8.1
Friuli-V.G	24.6	18.7	10.7	27.2	24.7	18.7	-1.9	-4.6	-8.1
Liguria	30.1	19.7	12.7	32.1	27.7	18.7	-2.0	-8.0	-6.1
Emilia-Romagna	27.5	26.4	9.9	24.6	37.0	16.3	2.9	-10.6	-6.4
Toscana	24.7	29.6	9.9	24.0	37.5	17.5	0.7	-7.9	-7.6
Umbria	27.5	24.8	11.2	27.2	32.1	19.5	0.3	-7.3	-8.3
Marche	35.6	21.3	9.9	32.1	27.7	17.5	3.5	-6.4	-7.6
Lazio	32.9	18.5	13.3	28.0	25.7	22.8	4.9	-7.2	-9.5
Abruzzo	39.9	13.8	14.4	29.9	22.6	4.9	10.0	-8.8	-9.5
Molise	44.8	15.2	16.1	27.7	22.6	21.0	17.4	-7.4	-4.9
Campania	49.4	13.2	18.2	22.1	21.9	29.0	27.3	-8.7	-10.8
Puglia	44.9	13.7	18.7	25.5	18.5	28.9	19.4	-4.8	-10.2
Basilicata	44.4	16.1	12.4	24.3	25.7	19.1	20.1	-9.6	-6.7
Calabria	43.4	14.3	20.1	24.8	22.4	23.8	18.6	-8.1	-3.7
Sicilia	48.8	11.5	20.6	33.5	18.6	26.5	15.3	-7.1	-5.9
Sardegna	42.5	14.8	14.8	29.7	25.2	20.4	12.8	-10.4	-5.6
州別得票率偏差	10.0	4.9	3.8	4.5	5.6	4.4			

出典：同上

モデナ、ボローニャ、フィレンツェ、リヴォルノ、ペスカーラ、ナポリ、サレルノ）を対象とした投票の変動・移動についての調査を行った（図3）。その結果、M5sは南部でPDから票を奪い得票を伸ばしている一方で、北部の都市では、PDから票を奪ったものの、それ以上に本来のM5s

表6 2013年及び18年下院選挙における M5s の得票率（地域別）

	2013	2018	得票率の差
北西部	23.1	23.6	0.5
北東部	24.8	23.7	-0.1
「赤い諸州」	24.6	27.7	3.1
中部	28.6	35.8	7.2
南部	26.6	47.3	20.7
計	25.5	32.7	7.2

* 北西部：Valle d'Aosta, Piemonte, Liguria, Lombardia; Nord-est: Veneto, Trentino Alto-Adige, Friuli Venezia-Giulia; 「赤い諸州」 Emilia-Romagna, Toscana, Marche, Umbria; 中部：Lazio, Abruzzi, Sardegna; 南部：Molise, Campania, Basilicata, Puglia, Calabria, Sicilia

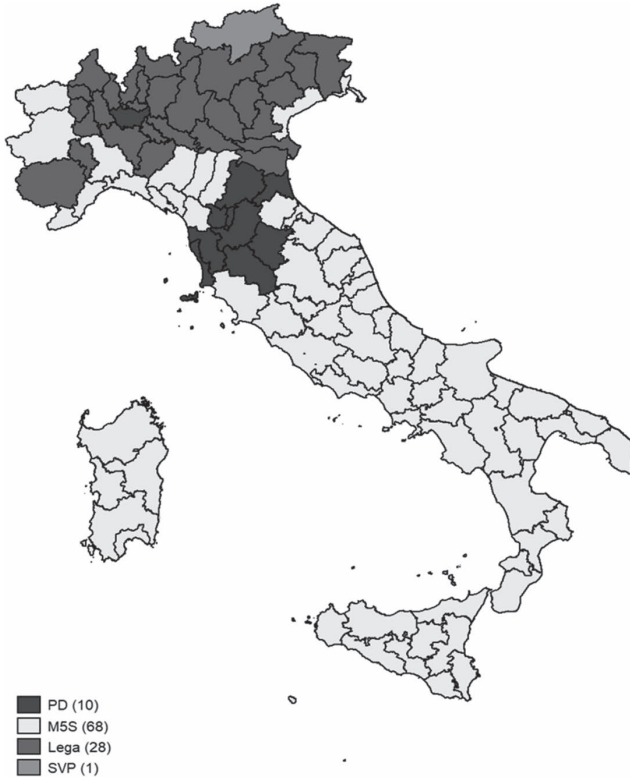
出典：elaborazione Istituto Cattaneo su dati Ministero dell'Interno, <<https://www.cattaneo.org/2018/03/05/elezioni-politiche-2018-chi-ha-vinto-chi-ha-perso/>>

票が Lega に流れ得票を減らしたという票の移動構造があることが判明した（図3）。この構造が、M5s の得票の南部化の背後にあることは明らかである。

また、この投票構造を生み出した要因はカッターネオ研究所の指摘によれば、M5s の「穏健化」にある。それは、2018年選挙に向けて、グリッロが第一線に立つのではなく、デ・マイオが事実上の首相候補者である「政党の代表者」に就任したこと、抑制が効き制度化された選挙戦が展開されたことなどに示される。この「穏健化」がPDを中心とした中道左派の穏健な部分の有権者をM5s への投票に導いたのである。しかし、他方で、支持者の急進的な部分がM5s を離れ、明確な反移民・反EUの政策（国家主権中心主義, *sovranismo*) を提示した Lega に流れるという結果となった。

Lega Lega は、書記長サルヴィーニのイニシアティブで党名から「北部」の名称を外したことに示されるように自らのアイデンティティを地域主義政党から全国的な右派政党へ変更した（マローニや北部の地方政治家によって理解された緑のパダーニャに代表される Lega の原点から全国政

図1 2018年下院選挙小選挙区における第1党



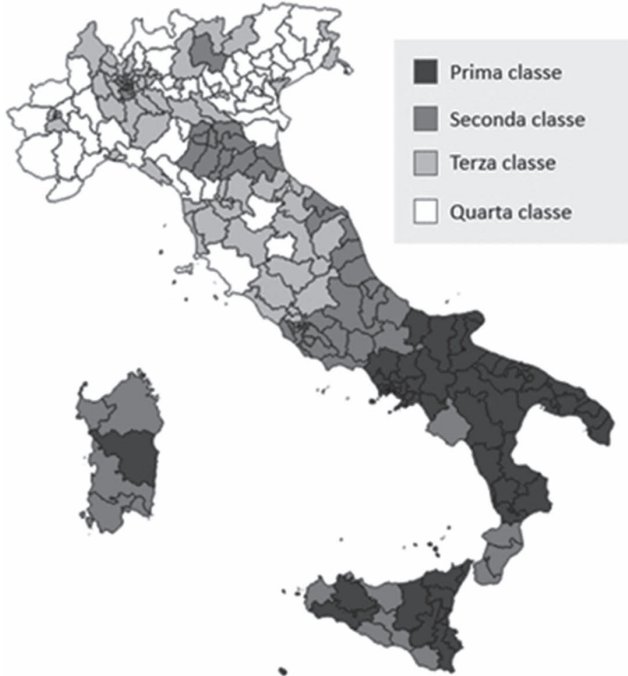
* Aosta 及び Bolzano 県を除く

出典：elaborazioni Osservatorio elettorali Demos, <<http://www.demos.it/a01485.php>>

党としての Lega)。そのため、党の基本政策も郷土主義・地方分権から反緊縮政策、反ユーロ（ユーロは「人道に対する罪」）、移民・難民流入反対（外国人への恐怖を煽る排外主義）へと軸足を移して選挙に臨んだ。

Lega の選挙結果の特徴は、以下の四点にまとめることができる。第1は、本来の地盤であった北部での支持をさらに拡大したことである（北東部29.3% [+20.4%]、北東部25.7% [16.7%]、表3・4）。第2は、これが最も特筆すべきことだが、中道左派の牙城であった中北部で18.4%

図2 2018年下院選挙における M5s の地域別得票率の伸び率

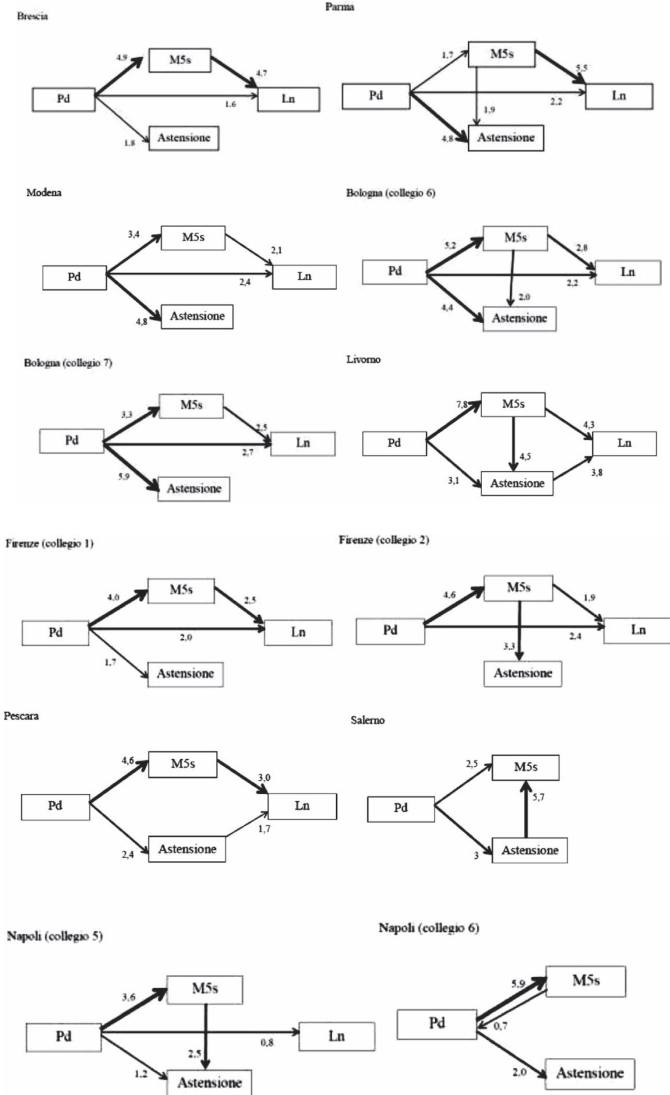


* Aosta 及び Bolzano 県を除く
出典：図1と同様

(+16.4%)と大幅に得票率を伸ばしたことである。第3は、中南部13.2% (+13.0), 南部・島部3.7% (+5.5)でも支持を拡大し、全国政党となった(表4)。最後に、中道右派連合の中で初めてベルルスコーニのFIを追い越し第1党となった。

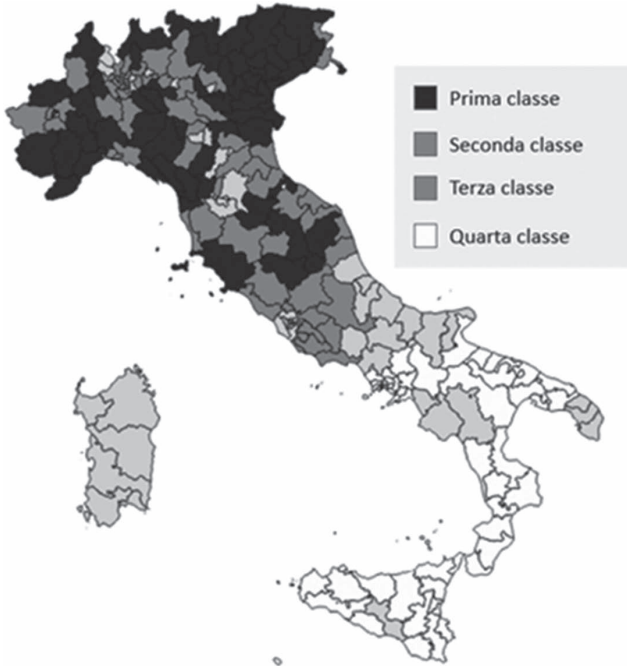
PD 今回の選挙の最大の敗北者は、中道左派連合の中核政党あるPDであった。PDは、得票数で2013年に比べ2,613,891票(8,646,034票→6,032,143票)減らし、得票率でも25.4%から18.7%に沈んだ(-6.7%)。この敗北の最大の要因は、「赤い州」におけるPDの後退にある。「赤い州」とはカッターネオ研究所が、投票行動における均質性と投票行動の予想可

図3 下院選挙に関するいくつかの都市における2013年から2016年への投票先の変動



出典：Istituto Cattaneo, Elezioni politiche 2018, Il voto per il Movimento 5 stelle: caratteristiche e ragioni di un successo, <<http://www.cattaneo.org/wp-content/uploads/2018/03/Analisi-Istituto-Cattaneo-Elezioni-Politiche-2018-Chi-ha-vinto-chi-ha-perso-5-marzo-2018-2.pdf>>

図4 2018年下院選挙における Lega の地域別得票率の伸び率



* Aosta 及び Bolzano 県を除く
出典：図1と同じ

能性の高さを基に分類した政治的地理区分の一つで、イタリア共産党及びその後継政党である左翼・中道左派が支配的な勢力を維持してきた地域で、具体的にはエミリア・ロマーニャ、トスカーナ、ウンブリア、マルケの4州からなる地域を指す（グラフ1）。

「赤い州」におけるPDの2018年選挙の結果から以下の2点を指摘できる。第1に、1968年の59.8%から30.1%とほぼ得票率を半減させたことである。この結果、左翼・中道左派政党の選挙における優越性は終焉し、選挙市場は、他の新しい政治勢力にも開かれた。この現象は、2013年にM5sが第三の勢力として国政選挙に参戦し、「赤い州」における中道左派勢力の強固な基盤にひびを入れたことで予見されていた。

表7 Lega: 1994-2018の地域別得票率

	1994	1996	2001	2006	2008	2013	2018
北部	19.0	23.1	9.3	9.4	19.1	9.4	26.7
中部	3.5	4.0	1.3	2.2	4.4	1.5	18.4
南部	0.0	0.0	0.0	1.1	0.0	0.2	7.9
全国	8.4	10.1	3.9	4.6	8.3	4.1	17.4

出典：Roberto D'Alimonte, *Le elezioni politiche italiane 4 Marzo 2018*, <<http://www.assonime.it/Stampa/Documents/Assonime%20giunta%20%20Roma%2020%20marzo%20%202018%20.pdf>>

表8 中道右派連合における Lega の比重 (1994-2018, 下院)

政党名	1994	1996	2001	2006	2008	2013	2018
AN/Fdl	31.4	33.8	22.5	30.4	81.8	7.1	12.2
FI/Pdl	49.1	44.4	55	58.3		78.1	39.2
LN/Lega	19.5	21.8	22.5	11.3	18.2	14.8	48.6
Total	100	100	100	100	100	100	100

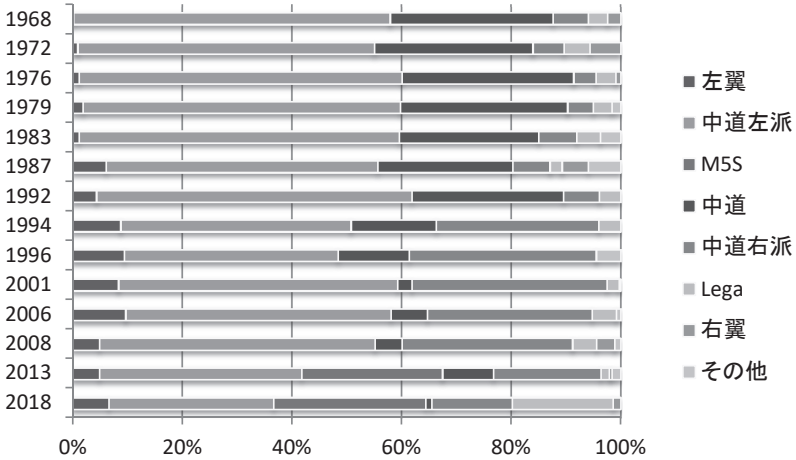
* Valle d'Aosta と在外選挙区を除く数値。2008年の FI/Fdl に関する数値は、Pdl のみに関する。

出典：Franluca Passarelli e Dario Tuorto, *La Lega di Salvini: verso l'egemonia del centro-destro*, in AA. VV. Itanes, *Vox populi, Il voto ad alta voce del 2018*, il Mulino, 2018, p. 91 表6.1

第2に、2018年の選挙結果から、共和国の選挙史上初めて「赤い州」における左翼・中道左派政党の支配体制の消滅を示す2つの現象が浮かび上がった。まず、赤い4州全体での得票総数においてPD(1,617,748票)が第1党の地位から滑り落ち、1,682,365票を獲得したM5sにその地位を奪われた。次に中道右派への支持が、得票数でも得票率でも中道左派を初めて上回った。

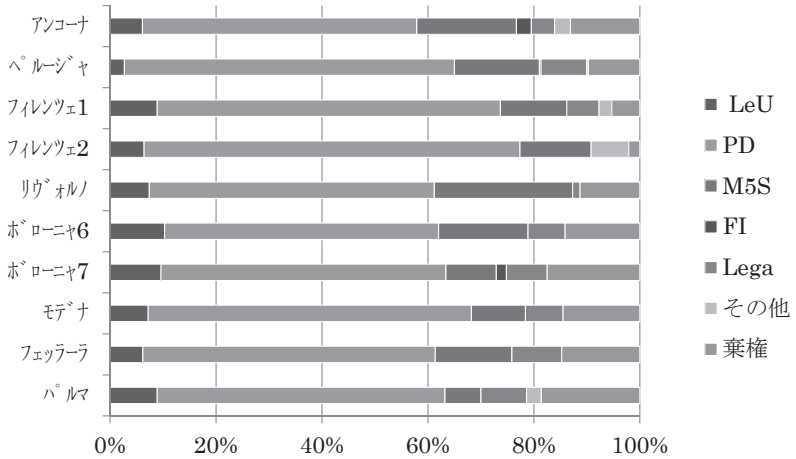
高橋：イタリア総選挙結果とコンテ内閣の成立

グラフ1 赤い州（エミリア・ロマーニャ、トスカーナ、ウンブリア、マルケ）における得票率



出典：Istituto Cattaneo su dati dell'Interno.

グラフ2 「赤い州」7都市におけるPDからの得票の移動



出典：Istituto Cattaneo, Le chiamavano regioni rosse, <<http://www.cattaneo.org/wp-content/uploads/2018/03/Analisi-Istituto-Cattaneo-Elezioni-Politiche-2018-Regioni-rosse-6-marzo-2018.pdf>>

2. コンテ内閣の成立過程とその特徴

(1) イタリアにおける組閣の手続きの概要²⁾

イタリア共和国憲法は、92条2項（「大統領は内閣総理大臣を任命し、その提案に基づき各大臣を任命する。」）で大統領が首相の任命権者であることを規定しているだけで、首相の任命手続きについて何ら言及していない。しかし、大統領は任意の手順で首相を任命するのではない。「憲法慣習」上、「協議」、「委任」、「任命」の3つの段階を経て首相・各大臣を任命している。

協議段階 大統領は、関係者との協議を通じて、新たに内閣を成立させる政治的環境が整っているかを確認する。協議の相手は、両院議長、大統領経験者、政党・会派の代表者、社会経済団体の代表者などである。協議のスケジュールおよび相手方は事前に大統領府から公表される。大統領による協議だけでは不十分な場合は、上院または下院議長などに委任し、協議を継続させることがある（後述するように今回も行った）。

委任段階 協議の結果を受け、大統領が、議会で多数派を形成し得る者、すなわち事実上の首相候補者に口頭で組閣を委任する。通常、候補者は留保を付けて受任する。

任命段階 組閣の委任を受けた者が、議会多数派を構成する政党との協議を調べ、大統領にその旨を報告し、閣僚名簿を提示する。大統領は、大統領令によって首相を、また、首相の提示した閣僚名簿に基づいて各大臣を任命する。（憲法第92条第2項）、さらに、首相とその他の大臣は、大統領の面前で宣誓を行い、正式にそれぞれ就任する（憲法第93条「内閣総理大臣と各大臣は、就任に先立ち大統領の手に宣誓する。」³⁾）。

2) 以下の文献に依拠した。調査及び立法考査局イタリア法研究会「イタリアにおける組閣過程における大統領の役割と関連法令」外国の立法238（2008.12）96-105頁。

3) 宣誓の在り方については、1988年8月23日法律第400号1条3項は次のように規定している。「内閣総理大臣及び大臣は、その就任に先立ち、共和国大統領の面前

内閣はその成立後10日以内に、両議院の信任を受けなければならないが（憲法94条3項「政府は、成立後10日以内に、信任を得るために両議院に出席する。」）、それに先立ち、政策綱領を閣議で決定する。各議院では、政策綱領について討論を行った後、理由を付した内閣信任動議を、記名投票によって採決する（憲法94条2項「各議院は、理由を付し、記名投票により表決された動議を通して、信任を与え、又は拒否する。」）。

(2) コンテ内閣の成立までの経緯

コンテ内閣の成立までの経緯の概要は以下の通り⁴⁾。

3月4日 総選挙投票日

23日 18立法期の開始

24日 両院の新議長の選出 上院 マリア・エリザベッタ・アルベルティ・カゼッラーティ (Maria Elisabetta Alberti Casellati, 1946年生まれ、フォルツァ・イタリア、3回目の投票で選出)、下院 ロベルト・フィーコ (Roberto Fico, M5s, 4回目の投票で選出)。院内会派の届出。なお、自由と平等については例外として下院に会派を設置することを承認（4月10日）

4月4・5日 大統領、新内閣樹立のための第1回協議（上院・下院議長、名誉大統領、院内会派〔所属議員の多い順〕）。

協議の終了に際し、大統領以下の宣言を発表。「3月4日の選挙では、特定の政治勢力が過半数を得ることができなかった。下院も上院も3つの政治的潮流が存在している。それゆえ、議会で過半数を得ることができ、内閣を生み出し、継続させる連立を形成するためにこの3つの政治勢力の内の2つの間での合意が不可欠である。しかし、この二

で、次のとおり宣誓する。私は、共和国に対して忠誠を誓い、憲法及び法律を誠実に遵守し、もっぱら国民のために自らの職務を行うことを誓います。」

4) Cfr., Andrea Pertici, Dalle elezioni del 4 marzo 2018 alla formazione del Governo Conte, *Osservatorio AIC*, 2018, fascicolo 2, pp. 383-401 <https://www.osservatorioaic.it/images/fascicoli/Osservatorio_AIC_Fascicolo_02_2018.pdf>

日間の協議ではこの合意に至らなかった。」

12・13日 大統領第2回協議

13日 大統領協議終了後、声明を発表。「この2日間の協議から、内閣を支える議会において多数派生み出すための政党間の議論は、進展をみなかったことは明らかである。」と組閣のための協議の手詰まり感を初めて表明。「完全に機能する内閣の形成という目的の達成に向けて、政党間の協議が前進し、合意に達すること」が求められている、と声明で強調。

18日 大統領は、上院議長に①中道右派連合の政党と M5s との間での議会多数派の形成の可能性、②両勢力が一致して挙げることができる総理大臣候補者の存在の可能性の調査という任務を指示。

18・19日 上院議長、上記の調査を目的とした意見聴取を行う

20日 上院議長、大統領に謁見し、中道右派連合と M5s の連立交渉が失敗したことを発表。

23日 大統領、下院議長に M5s と PD との連立の可能性調査の任務を与える。

24-26日 下院議長 M5s 及び PD の院内会派の意見聴取を行う。

26日 大統領、下院議長と面会。M5s と PD の連立へ向けた協議開始の可能性があると報告を下院議長から受ける。しかし、来週に予定されている PD の全国評議会の結論を待つ必要。

29日 前民主党書記長レンツィがライウノのインタビューで、M5s との連立の反対を表明（「選挙で敗北した PD は政府に参加することはできない」、5月3日の全国評議会でもこの路線が支持された）

5月7日 大統領3回目の協議を行う。協議の終了に際して、内閣形成の協議の行き詰まり状態という認識を示し、政治的な内閣ではなく大統領が実質的に指名する政治的に中立的内閣という選択、早期解散の可能性に言及。

5月9日 M5s と Lega の指導者が、大統領に両勢力間での連立のための

合意のための作業に時間的猶予を求め、大統領はそれを認める。

10日 大統領は、LegaとM5sの代表団とのみ協議を行う。協議の終了時にM5sのデ・マイオ下院議員は、ドイツモデルに従って両政治勢力の責任者が署名する「変革のための内閣に関する合意」と名付けられた「政府協定」に言及。

21・22日 大統領、両院の議長とともに再びLega、M5sの代表団と協議。いずれの代表団も首相候補としてコンテ（Giuseppe Conte）教授（フィレンツェ大学）を挙げる。

23日 大統領、コンテ教授を召還し、首相候補に任命。コンテ教授条件付き受託。

27日 コンテ教授は、大統領に謁見し、閣僚名簿を提出。しかし、大統領は、面会終了後に内外に声明を発表し、その中で組閣作業の不調を宣言（閣僚名簿のうち、反EU（ユーロからの離脱）の立場を採るエコノミストであることを理由にサヴォナ（Paolo Savona）教授の経済大臣への任用を拒否）。コンテ組閣断念

M5s 大統領の弾劾請求を即座に行うことを表明。この提案をイタリアの同胞（Fratelli d'Italia）は支持するが、Legaは支持せず。

28日 大統領は、2019年予算成立後の早期再選挙も視野に入れ、親EUの立場を採る国際派エコノミスト（非議員）であるコッタレリ氏（Carlo Cottarelli）を新たに首相候補者に任命した。コッタレリ氏は条件付きで受託。その政権は、政治家ではなく学者や官僚で構成されることが想定された。

29日 M5sは、Legaの同意なしに大統領の弾劾手続きに入ることは欲しないと宣言。コッタレリ氏は、大統領に謁見し閣僚名簿を提出すると報道されたが提出には至らなかった。

31日 コッタレリ氏は、組閣の任命を返上。大統領は、コンテ教授を召喚し、再び組閣を命じた。コンテ教授は受任し、前回の名簿から①大統領によって拒否されたサヴォナを経済大臣から「政治的にはよ

り目立たない」欧州問題担当大臣とし、②経済大臣には「ユーロに批判的ではあるがEUを否定する訳ではない」経済学者のトリア（Giovanni Tria）を据えるという手直しをした閣僚名簿を提出。大統領受理。

6月1日 コンテ内閣大統領に宣誓 65代内閣の成立

5日 上院で信任を得る（171 vs 117 棄権25）

6日 下院でも信任（350 vs 236 棄権35）

(3) コンテ内閣の成立に関する特徴

特徴の第1の点は、2018年3月4日の総選挙投票日から6月1日の内閣の成立までに89日も要した点である。戦後ではアマート第1次内閣の83日を超えて最長である。これは、総選挙の結果としていずれも単独で過半数に達しない三極的な政治編成になったことに大きな理由がある。

小選挙区制を中心とした比例代表制との組合せ（1993年選挙法）、プレミアム付き比例代表制（2005年選挙法）と選挙制度を通じて政権交代可能な2大政治勢力を作り出してきた。しかし、今回の選挙制度改革で、憲法裁判所の判決の影響もあり、小選挙区制と比例代表制の比率が約4対6の混合制を導入したことが、三極的な政治勢力編成を助長した面もあった。

しかし、新議会において過半数を占めた2大政党 M5s と Lega との連立協議に手間取ったという問題も存在した。というのも政策面ではEU懐疑主義という共通性もあるが、移民問題や社会的排除（新貧困問題）への対応という点で隔たりも大きかった。

第2は、組閣過程における大統領の権限・役割の問題である。具体的には、①組閣が行き詰まりを見せたときに、大統領は、自ら首相候補者の人選を行い、政党による内閣か、専門家で構成される内閣かの選択を諸政党に迫ったことの妥当性、②サヴォナ（Paolo Savona）教授の経済大臣への任用を事実上拒否したことの問題である。

まず①については、憲法92条2項の規定から、首相の任命は大統領の専

権事項であると理解できる。しかし、憲法94条の規定と合わせて解釈すると大統領の首相任命権も全くの自由裁量ではなく、議会の信任を確実に得られるという人物という条件をクリアしなければならない。

以上の憲法解釈を前提とすれば、マッタレッタの選択は、憲法上問題はないといえる。

②については、大統領は首相候補者が示した閣僚の人選を拒否することが憲法上可能かという問題である。すなわち、「大統領は、首相の提案に基づいて各大臣を任命する」（憲法第92条）という規定の解釈をめぐる問題である。憲法学の通説⁵⁾では、大臣の任命権は首相にあり、大統領は例外的に首相の人選に同意しないことができるにとどまると解釈されている。

ただ、今回のマッタレラ大統領の異議については、憲法学者の間での見解が分かれた⁶⁾。

5) Augusto Barbera e Carlo Fusaro, *Corso di diritto pubblico*, 10 ed., Bologna, Il Mulino, 2018, p. 414.

6) 反対・賛成派の意見は、それぞれ次の文献を参照。Valerio Onida, *La scelta di Mattarella? Impropria*, intervista in Milano *Finanza*, n. 104, 29 maggio 2018; V. BALDINI, *Il veto assoluto alla nomina di un Ministro e la formazione del governo del Presidente: uno sbrego alla Costituzione?* in *Dirittifondamentali. it*, 1/2018